



もり 北の森林 国有林

写真：紋別国有林のトドマツ林（紋別市）

今月のトピック

- ・エゾシカ捕獲対策の推進



2021
No. 62



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局





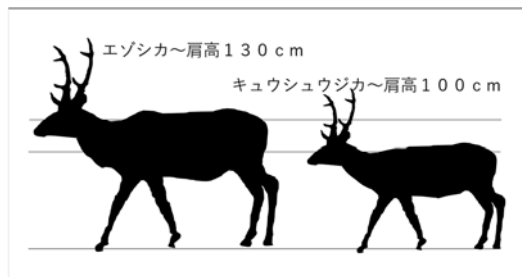
エゾシカ捕獲対策の推進

保全課

北海道森林管理局ではエゾシカによる農林業被害の軽減に向け、狩猟者への対応と、自ら又は自治体との連携による捕獲事業に取り組んでいます。

【狩猟について】

日本国内に広く生息するニホンシカ。7つの地域亜種が存在し、その一つであるエゾシカ（オスの体重約130～150kg）は、同じ亜種である



【図1】 大きさの比較

キウシュウシカ（オスの体重約60～100kg）と比べて、かなりの大きさです。（図1）
このことから、狩猟の対象としても人気が高く、道外からも多くの狩猟者が訪れます。

一方、道内の可猟区は、一部猟区を除いて狩猟に関する管理を行わない、いわゆる「乱場」となっており、猟銃による事故も後を絶ちません。

国有林には、各種事業を行うため、森林レクリエーションを楽しむためなど、様々な目的で人が訪れます。

猟銃による事故は、被害者はもちろんですが、加害者にとっても一生を左右する重大な事態となりますので、これを防ぐため、各種安全対策の徹底を図っています。

なお、北海道は面積が広大なため、入林手続き

を北海道森林管理局に集約し、郵送・FAXのほかオンラインでも可能とするなど、狩猟者の負担軽減にも努めています。

【エゾシカはどこにいるのか】

比較的狭い範囲で活動する関東以西のニホンシカに比べて、エゾシカ個体群の多くは、森林と農地の間を季節で行き来しており、時には100kmも移動することが知られています。

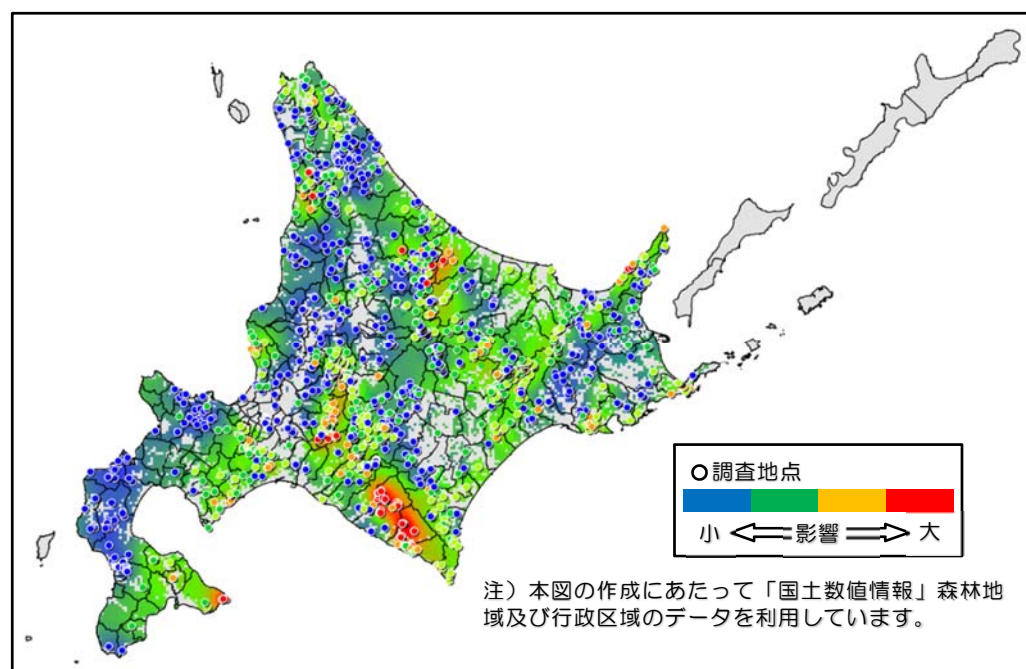


【写真1】 2頭の雄シカ

また、基本的にオスメスは別々の群れで行動

しますが、夏には草地や農地周辺で牧草などの農

作物を採食し、秋から冬にかけては、オスが十数



【図2】 天然林にエゾシカが与える影響評価（2019年簡易チェックシート調査）
（北海道森林管理局・北海道・北海道立総合研究機構）

頭のメスを引き連れ、針葉樹などがある森林内に集まります。

冬の森林内ではササや木の皮を採食し、飢えをしのぎ春を待つのですが、このような場所を「越冬地」といい、狩猟者の手が届かない奥地の国有林に集まるものが多く、ここで如何に効率的に捕獲を行うかがポイントと考えています。

【エゾシカによる森林被害の実態把握】

エゾシカは、ササ、樹木の枝や皮、森林内に自然に発生した若木も採食してしましますが、その影響は見えづらく、じわじわと蝕むように森林被害が進んでいきます。

そこで、歳月による変化がわかるよう全道各地に「定点」を設け調査を行っています。

また、職員が森林に向いた際に、その場所の状況を記録し、エゾシカ被害がどのように広がっ

ているのかなど実態把握に努めています。(図2)

【森林づくりとしての捕獲事業】

二ホンシカによる被害を全国的に見ると、特に平成に入った頃から顕著になり、地域によっては表土が露出し、土砂が流れ出すなど、深刻な状況となっています。



【写真2】捕獲事業のため設置した大型囲いワナ内の様子

北海道においても、生息密度が高い地域では同様の状況も見られており、森林整備事業における森林づくりの一環としてエゾシカ捕獲事業に取り組んでいます。

その手法は、囲いワナやくくりワナ、林道を封

鎖して行うモバイルカリングなど、地域の状況に応じ、また、場合によっては、それらを組み合わせるなど工夫しながら取り組んでいます。(写真2)

【職員による捕獲の実施】

狩猟者の高齢化など、後継者不足と言われている中、国有林の管理を行う者として、職員自ら「くくりワナ」を使用した捕獲に取り組んでいます。

昨年度は、局職員が試行的に陸別町と恵庭市で実施し、今年度は、稚内市と苫小牧市での実施を計画しています。

実際にワナを仕掛けていく中で、という箇所がワナを仕掛けるのが効果的か、冬期間のワナ本体の凍結をどう防止するかなど、関係者の方々からアドバイスをいただきながら、経験を積み重ねているところです。(写真3・4)



【写真4】くくりワナによる捕獲



【写真3】くくりワナ

【自治体等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬場所は判っているものの、積雪等で駆除者が現地に行けないというケースも多く、そのような場合、自治体との協定締結により、森林管理署が林道除雪とエゾシカによる誘引を、自治体が行っています。(写真5) また、自治体単独の捕獲事業実施にあたり、積極的に国有林野を捕獲の場として利用していただいています。



【写真5】林道除雪の様子

【おわりに】

北海道森林管理局では今年度の重点取組事項として「多様な森林づくり」を掲げています。

森林内に発生する若木の増大は、適切な森林の管理経営を進めていく上で大きな支障となります。

冬期に国有林に集まってくるエゾシカを如何に効率的に捕獲するかが、地域の農業だけでなく林業にとっても重要となっています。

目標とする多様な森林づくりのため、効果が上がるよう、地道に取り組んでいく考えです。

初山別地域森林整備の取組について

留萌北部森林管理署

はじめに

当署では留萌振興局、初山別村、遠別初山別森林組合の4者で森林整備協定を締結し、各機関が連携して、①現地検討会、②技術研修会、③木質バイオマス勉強会、④森林教室に取り組んでいます。なお、協定は平成23年に締結し、10年目に入っています。この間、協定の見直しと、3度の更新を行っています。

また、来年度は現協定の最終年度に当たり、次期5年間の取組の具体的な内容を検討する必要があります。

これまでの取組について

協定の締結以降開催した現地検討会では、この協定に基づき設定している道有林と国有林の間伐予定箇所、施業の検討や実行するに当たっての課題について意見交換を行いました。その結果、作業コスト、搬出コストの削減に繋がることを目指して道有林と国有林の合同入札

を実施しましたが、それぞれ異なる業者が落ちたため、残念ながら成果は限定的なものとなりました。



合同入札箇所の伐採

技術研修会では、協定を締結している4者の機関に参加者を限定せず、広く管内の林業関係者の技術向上を目的に、北海道大学天塩研究林で36年生のアカエゾマツの造林地の見学や天然更新表土戻し試験地、天然更新エゾマツ刈出し、カンバ強度間伐試験地などを視察しました。現在国有林で取り組んでいる「天然力を活用した多様な森林づくり」に活かしていきたいと思っています。

木質バイオマス勉強会では、下川町より「一の橋

地区バイオビレッジ構想」について話を伺いました。この地区では、給湯や暖房を木質バイオマスボイラーから集住化住宅へ供給するなど、エネルギー自給型集住化エリアを整備することで集落の再生を目指していることです。



カンバ強度間伐試験地

森林教室では、4者が連携して、小学生を対象に森林調査の体験として、樹木の直径や高さを機器を使った計測を実施しました。また、樹木の名前や特徴、人間生活とのかかわりについても説明しました。

今年度においてもこのような技術研修会、森林教室の開催を検討していましたが、新型コロナウイルス

感染症の防止のため実施を見合わせました。



森林教室

今後に向けて

当地域は、木材の搬出や森林整備が小規模で散行的に行われ、施業の集約化が進んでいません。

こうした状況を踏まえ、引き続き森林共同施業団地において、作業コストや搬出コストの削減に向けた現地検討会等の取組をはじめ、北大研究林、民有林あるいは社有林での技術研修会の実施によるスキルアップなど、関係機関で連携し、地域の課題解決に向け、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

こんにちは 森林官です！

根釧東部森林管理署
川北森林事務所
森林官 永井幸哉



左が森林官 右が事務所員

【所在地紹介】

川北森林事務所は北海道の最東端、根室振興局管内の中心部に位置する標津町の中心部に位置する標津町に所在しています。この地域は、標津町を中心として両腕を伸ばすように、左手に日本最後の秘境といわれる知床半島、右手にはノサップ岬を先端とする根室半島が延びています。正面はオホーツク海に面し、洋上わずか24km先には近くて遠い島・国後島が、その大きな姿を見せています。標津町は豊かな海と大地を生かし「生産の町」として鮭や帆立などの漁業と町人口の約4倍の数が飼育されている乳牛を中心とする酪農業によって発展した町です。



メロディーロード出発点

また、標津町は道路を走行すると音楽が聞こえるメ

ロディーロード発祥の地でもあり、「知床旅情」が流れる道路や、「交差点です交差点です 止まってください」などと聞こえる「話す道」があります。残念ながら冬期間は聞くことができない場合があります。

【管内概要】

川北森林事務所では、約16,300haの国有林を管轄しています。森林事務所の主な業務は、国有林の巡視、森林施業の基礎となる地況林況調査や収穫調査、各種請負事業の監督業務、境界巡視等の業務を2名体制で行っています。



格子状防風林

また、北海道遺産に選定された「根釧台地の格子状防風林」の一部も管轄しています。

この格子状防風林は標津町、中標津町、別海町、標茶町にまたがり、総延長は648kmに及び、その全容は宇宙からしか確認できないといわれるほど壮大なものです。



川北担当区集合土場

防風林は農作物を気象害から守るだけでなく、生活環境や景観の維持、野生動物のすみかや移動通路として生態系維持にも重要な役割を果たすほか、森林整備に伴う木材生産も行っており、事業地は小規模で散在化しているため、作業効率の向上や動植物の生息環境・近隣の農地・民有林の土地所有者に配慮した作業により、伐採した木材を里に近い集合土場へ集積しています。伐採された木材が

集積された姿は圧巻の一言です。

【業務を通じて】

時には自分たちの背丈よりも高い笹を漕ぎ、熊の恐怖に耐えながら、長時間歩かなければならない日もあり、大変な事もありますが、汗を流しながら業務を行うことで、山づくりに携わっている充実感を感じ、可愛い野生動物との出会いに心が癒やされます。

また、季節によって異なる山の景色の表情・雰囲気、目や耳肌で感じつつ、仕事ができる事にやりがいを感じながら、豊かな森林・山づくりに少しでも貢献できるように、これからも業務に励みたいと思います。



森林からのご褒美

作業風景

も い 森 林 の 話

採用二年目の若手職員のコーナーです

第12話

根釧西部森林管理署

西浦 燿

アメマス(雨鱒)という魚をこ存じでしょうか？

北海道内に広く生息しているサケ科の魚で、体に白点があるのが特徴です。

秋になると産卵のため海から川に上る魚といえはサケやカラフトマスが有名ですが、筆者の主な仕事場である弟子屈町内の河川にはアメマスが遡上します。



アメマスのつがい(夫婦)

一般的に山林内を流れる河川は水深が浅く、大型の魚の住みやすい環境ではありません。弟子屈町の河川もその例に漏れず、水深が10cm程度の箇所も多く存在します。そのような場所を、右の写真のような個体(50cm程度だと思われる)

す)が海から遡上してきたことを考えると、その生命力の強さには驚かされます。



休日に釣ったアメマス

先に述べたように、アメマスは生息域が広く、個体数も多いため、珍しい魚ではありません。

しかし、釣りの対象魚として人気があり、弟子屈町の河川の下流域に当たる釧路川でもアメマスを狙う釣り人が多くみられます。

また、アメマスはアイヌの伝承にも「災害を起こす魚」として、たびたび登場します。ここでは弟子屈町に関連する2つの伝承を紹介します。

「アイヌの英雄が屈斜路湖で暴れる大きなアメマスを押さえつけた際に山が崩れて、中島ができた。弟子屈地域に地震が多い理由は、その際下敷きになったアメマスがまだ死にきれずに暴れるからだ。」という伝承や、「摩周湖に棲むアメマスがシカを丸呑みした際に角が喉に刺さって死んでしまい、アメマスの体が川を塞いでしまった。湖があふれそうになったため、そのアメマスを引っ張り出したところ流れ出した水で洪水が起きた。」といった伝承があるそうです。



摩周岳から見た摩周湖

生物の保護という絶滅危惧種のような希少な生物

を思い浮かべがちですが、アメマスのように趣味や民話等、様々な方法で人々を楽しませてくれる生物はたくさんいるかと思えます。広報誌の執筆にあたって、改めてこういった生物の棲みやすい環境をつくっていくことの大切さについて、考えさせられました。

最近ではコロナ禍の影響もあってか、アウトドアに関心を持つ方が増えているように思います。

初心者の方がいきなり登山・キャンプ等をするのは少しハードルが高いかもしれませんが、自然観察を通じて自然とふれあうことは誰にでも簡単にできます。

例えば、家の周りにある街路樹や鳥の写真を撮ったり、インターネットで調べたりするだけでも、面白い発見があるかもしれません。コロナ禍で大変なご時世ですが、外出した際には身の周りの生き物に目を向けてみてはいかがでしょうか。



各地からの便り



「北森カレッジ」で講義を実施

百年先を見据えた北海道の森づくりに向けて、林業・木材産業の即戦力となり、企業等の中核を担う人材を育成するため、道内初となる林業大学校として令和2（2020）年4月に「北海道立北の森づくり専門学院」（略称・北森カレッジ）が開校されました。



講義の様子

北海道森林管理局では、当学院の運営支援のため実習フィールドの提供等に積極的に取り組むこととしており、この度、その一環として講義の「コマである「国有林の管理経営」に関して計画課の森経営計画官が講義のために、令和3年1月19日（火）

学院に赴きましたので、その内容を紹介します。

講義では、国有林の定義から、国有林の目標（管理経営方針）、国有林の計画制度など基本的なことから北海道の国有林の概況や成り立ちなどについて見どころを交えながら説明しました。卒業後、林業事業体等へ就職した際に役立てていただくことを期待して、先進的な低コスト・省力化施業や重点的に取り組んでいる天然力を活用した多様な森づくりなど、国有林しか実施していない特有の事業等の紹介を交えながら解説しました。

生徒のみなさん個性的で、のびのびと学院生活を満喫されている印象を受け、うれしく思うと同時に、彼らに未来の北海道の森林・林業界をけん引してくれる人材となり得る素質を感じました。

その素質を開花させるためにも、引き続き積極的に支援を行っていきます。

環境広場さっぽろ2020

バーチャルツアーで遊びました

1月9日（土）～14日（木）に「環境広場さっぽろ2020」が開催されました。オンラインで開催されました。

今回は、「次世代の子どもたちが笑顔で暮らせるSDGs未来都市」をテーマに、インターネット上で様々な映像やオンラインセミナーを楽しむことができるバーチャルツアーの会場が設けられました。



会場内の様子

会場には環境・SDGs ZONE、スポーツZONE、キ

キャリア教育ZONEが設けられました。

各ZONEには、様々な機関がブースを出展し、120を超えるブースが並びました。

また、ライブステージなどもあり、参加する感覚を楽しめる企画が随所にありました。



北海道森林管理局のブース

北海道森林管理局では「森のまちがいさがし」と森林・林業マンガの動画など、森林・林業・木材産業の魅力を皆さまに身近に感じていただきたいと考えるブースを出展しました。

令和 2 年度北の国・森林づくり技術交流発表会(WEB 開催)

北の国・森林づくり技術交流発表会は、北海道の森林・林業・木材産業の活性化を推進するため、情報提供や意見交換を通じて、技術力の普及・向上そして交流の推進を目的としています。

なお、CPD 認定プログラムにつきましては中止致します。ご理解、ご協力をお願いします

【口頭発表】

- ・口頭発表につきましては WEB 配信で実施します。
会場での傍聴は出来ませんので、ご留意願います。
- ・WEB による視聴を希望される方は、下記北海道森林管理局ホームページよりお申し込み下さい。登録期限は 2 月 12 日(金曜日)までです。
<申し込み URL はこちら>



<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/press/sidou/210129.html>

開催日時 令和 3 年 2 月 16 日(火) 9:15~16:00 一般(口頭)発表18課題
17 日(水) 9:00~10:25 特 別 発 表 4 課題
10:35~11:35 特 別 講 演

◇特別講演

「歴史から見通す北海道林業・木材産業の将来方向」

国立研究開発法人 森林研究・開発機構 森林総合研究所 北海道支所
地域研究監 嶋瀬 拓也氏

【ポスター発表】

展示・公開日 令和 3 年 2 月 15 日(月)~26 日(金) ポスター発表25課題
北海道森林管理局 ウッディーホール(1F)及びホームページ

※今年度はコアタイムを設定しておりません。

※ポスター発表をウッディーホールで閲覧される皆様には、ソーシャルディスタンスにご協力下さい。

主 催:林野庁 北海道森林管理局
お問合せ:技術普及課 011-622-5245

札幌市中央区宮の森 3 条 7 丁目 70 番 (札幌地下鉄東西線 西 28 丁目駅下車 徒歩約 15 分)

広報 「北の森林 国有林」 2月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3 条 7 丁目 70 番
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「エソノバッコヤナギ」

別名エソノヤマネコヤナギとも呼ばれるこの
木で作ったまな板は、繊維が複雑に走っている
ため弾力に優れ、包丁を痛めないことから古く
から多くの料理人に愛用されてきました。

ふっくら愛らしい花芽も魅力的です。

バッコヤナギの花芽のイラストを
表紙の月数字の横に載せました。